



全附P連のご案内

私たちは、公教育を考えます
～ 子どもたちとこの国の未来のために ～

(Contents)

1. 国立大学附属学校の概要
2. 全附連について
3. 全附P連について
4. 全附P連の活動紹介
5. 全附P連 創立65周年ビジョン

全国国立大学附属学校PTA連合会

(略称：全附P連)

1. 国立大学附属学校の概要



歴史

明治維新後間もない1872年設立の東京高等師範学校を皮切りに、70年代半ばから末にかけて全国に師範学校がつくられ、80年代にはその附属小学校がつくられました。

戦後はGHQ統治下で、軍国主義的教育の場だったとして存続の危機を迎えますが、その重要性が理解され、新制大学の制定と師範学校廃止により、国立大学附属小学校として生まれ変わりました。

一方、附属中学、附属高校はそのほとんどが、戦後の教育制度改革による6・3・3制を受けて設立されています。



現在の姿

国立大学附属学校園は、全国56大学に、幼稚園51園・小学校72校・中学校73校・高等学校17校・中等教育学校4校・特別支援学校42校の259校園が設置され、約9万人の子どもが通っています。

附属学校は、大学・学部、また地域と連携した教員の養成と研修、学校教育の実践研究による指導法の開発など、わが国の公教育の根幹を支え、教育水準向上を目指す役割を担っています。

わが国の公教育の根幹や
教育水準の向上を支える

附属学校の役割
(公共性・公益性)

教育実習校 教育研究校

地域のモデル校



近畿地区

- 滋賀大学教育学部附属
○幼稚園 ○小学校 ○中学校 ○特別支援学校
- 京都教育大学附属
○幼稚園 ○京都小中学校 ○桃山小学校
○桃山中学校 ○高等学校 ○特別支援学校
- 奈良教育大学附属
○幼稚園 ○小学校 ○中学校
- 奈良女子大学附属
○幼稚園 ○小学校 ○中等教育学校
- 大阪教育大学附属
○幼稚園 ○天王寺小学校 ○天王寺中学校
○高等学校天王寺校舎 ○平野小学校
○平野中学校 ○高等学校平野校舎
○池田小学校 ○池田中学校
○高等学校池田校舎 ○特別支援学校
- 和歌山大学教育学部附属
○小学校 ○中学校 ○特別支援学校
- 神戸大学附属
○幼稚園 ○小学校 ○中等教育学校
○特別支援学校
- 兵庫教育大学附属
○幼稚園 ○小学校 ○中学校

四国地区

- 香川大学教育学部附属
○幼稚園(坂出、高松) ○高松小学校
○高松中学校 ○坂出小学校 ○坂出中学校
○特別支援学校
- 鳴門教育大学附属
○幼稚園 ○小学校 ○中学校 ○特別支援学校
- 愛媛大学教育学部附属
○幼稚園 ○小学校 ○中学校 ○特別支援学校
- 愛媛大学附属高等学校
- 高知大学教育学部附属
○幼稚園 ○小学校 ○中学校 ○特別支援学校

九州地区

- 福岡教育大学附属
○幼稚園 ○福岡小学校 ○福岡中学校
○小倉小学校 ○小倉中学校 ○久留米小学校
○久留米中学校
- 佐賀大学教育学部附属
○幼稚園 ○小学校 ○中学校 ○特別支援学校
- 長崎大学教育学部附属
○幼稚園 ○小学校 ○中学校 ○特別支援学校
- 熊本大学教育学部附属
○幼稚園 ○小学校 ○中学校 ○特別支援学校
- 大分大学教育学部附属
○幼稚園 ○小学校 ○中学校 ○特別支援学校
- 宮崎大学教育学部附属
○幼稚園 ○小学校 ○中学校
- 鹿児島大学教育学部附属
○幼稚園 ○小学校 ○中学校 ○特別支援学校
- 琉球大学附属
○小学校 ○中学校

56大学259校園

約9万人の子どもたち



全国の国立大学附属学校

東北地区

- 弘前大学教育文化学部附属
○幼稚園 ○小学校 ○中学校 ○特別支援学校
- 秋田大学教育学部附属
○幼稚園 ○小学校 ○中学校 ○特別支援学校
- 岩手大学教育学部附属
○幼稚園 ○小学校 ○中学校 ○特別支援学校
- 山形大学附属
○幼稚園 ○小学校 ○中学校 ○特別支援学校
- 宮城教育大学附属
○幼稚園 ○小学校 ○中学校 ○特別支援学校
- 福島大学附属
○幼稚園 ○小学校 ○中学校 ○特別支援学校

北海道地区

- 北海道教育大学附属
○札幌小学校 ○札幌中学校 ○函館幼稚園
○函館小学校 ○函館中学校 ○特別支援学校
○旭川幼稚園 ○旭川小学校 ○旭川中学校
○釧路小学校 ○釧路中学校

北信越地区

- 新潟大学教育学部附属
○幼稚園 ○新潟小学校 ○新潟中学校
○長岡小学校 ○長岡中学校 ○特別支援学校
- 上越教育大学附属
○幼稚園 ○小学校 ○中学校
- 富山人間発達科学部附属
○幼稚園 ○小学校 ○中学校 ○特別支援学校
- 信州大学教育学部附属
○幼稚園 ○長野小学校 ○長野中学校
○松本小学校 ○松本中学校 ○特別支援学校
- 金沢大学人間社会学域学校教育学類附属
○幼稚園 ○小学校 ○中学校 ○高等学校
○特別支援学校
- 福井大学教育学部附属
○幼稚園 ○義務教育学校 ○特別支援学校

関東地区

- 茨城大学教育学部附属
○幼稚園 ○小学校 ○中学校 ○特別支援学校
- 宇都宮大学教育学部附属
○幼稚園 ○小学校 ○中学校 ○特別支援学校
- 群馬大学教育学部附属
○幼稚園 ○小学校 ○中学校 ○特別支援学校
- 埼玉大学教育学部附属
○幼稚園 ○小学校 ○中学校 ○特別支援学校
- 千葉大学教育学部附属
○幼稚園 ○小学校 ○中学校 ○特別支援学校
- お茶の水女子大学附属
○幼稚園 ○小学校 ○中学校 ○高等学校
- 東京学芸大学附属
○幼稚園 (小金井、竹早) ○世田谷小学校
○世田谷中学校 ○小金井小学校
○小金井中学校 ○竹早小学校 ○竹早中学校
○大泉小学校 ○国際中等教育学校 ○高等学校
○特別支援学校
- 筑波大学附属
○小学校 ○中学校 ○高等学校 ○駒場中学校
○駒場高等学校 ○坂戸高等学校
○大塚特別支援学校 ○久里浜特別支援学校
- 東京大学教育学部附属中等教育学校
- 東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校
- 東京工業大学附属科学技術高等学校
- 横浜国立大学教育学部附属
○鎌倉小学校 ○鎌倉中学校 ○横浜小学校
○横浜中学校 ○特別支援学校
- 山梨大学教育学部附属
○幼稚園 ○小学校 ○中学校 ○特別支援学校

中国地区

- 鳥取大学附属
○幼稚園 ○小学校 ○中学校 ○特別支援学校
- 島根大学教育学部附属
○幼稚園 ○小学校 ○中学校
- 岡山大学教育学部附属
○幼稚園 ○小学校 ○中学校 ○特別支援学校
- 広島大学附属
○幼稚園 ○小学校 ○中学校 ○高等学校
○東雲小学校 ○東雲中学校 ○三原幼稚園
○三原小学校 ○三原中学校 ○福山中学校
○福山高等学校
- 山口大学教育学部附属
○幼稚園 ○山口小学校 ○山口中学校
○光小学校 ○光中学校 ○特別支援学校

東海地区

- 岐阜大学教育学部附属
○小学校 ○中学校
- 静岡大学教育学部附属
○幼稚園 ○静岡小学校 ○静岡中学校
○浜松小学校 ○浜松中学校 ○島田中学校
○特別支援学校
- 愛知教育大学附属
○幼稚園 ○名古屋小学校 ○名古屋中学校
○岡崎小学校 ○岡崎中学校 ○高等学校
○特別支援学校
- 名古屋大学教育学部附属
○中学校 ○高等学校
- 三重大学教育学部附属
○幼稚園 ○小学校 ○中学校 ○特別支援学校

*平成30年4月1日現在

2. 全附連について



全附連とは

全附連とは、国立大学附属学校教員で組織する「全国国立大学附属学校連盟」（全附連盟）と 附属学校 PTA で組織する「全国国立大学附属学校 PTA 連合会」（全附P連）の総称です。全附連は、教育実習校、教育研究校であり、公教育向上や地域のためのモデル校でもある国立大学附属学校の支援を目的に活動しています。

全附連は、公教育を考えます。

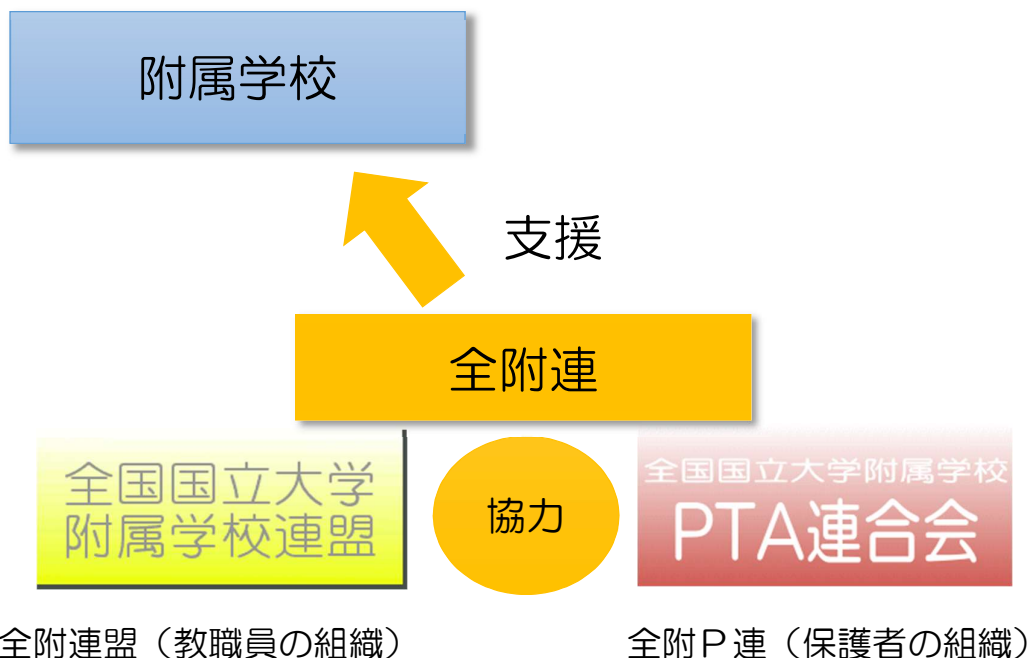
全国国立大学
附属学校連盟

全国国立大学
附属学校PTA連合会

ZENFUREN

全附連は公教育を考えます

全附連とは、国立大学附属学校教員で組織する「全国国立大学附属学校連盟」と附属学校PTAで組織する「全国国立大学附属学校PTA連合会」の総称です。



9つの地区会

全附連では、諸活動が各地域に行き届くよう、全附連盟、全附P連ともに、全国を9地区（北海道地区、東北地区、関東地区、北信越地区、東海地区、近畿地区、中国地区、四国地区、九州地区）に分けての、各地区毎の活動も行っています。

3. 全附P連について



全附P連とは

全附P連とは「全国国立大学附属学校 PTA 連合会」の略称です。昭和24年、「全国国立大学附属学校連盟」（全附連盟：教職員の組織）が設立され、その後昭和27年に、保護者の組織として設立されました。平成29年で設立から65年が経過し、その間この国の公教育に対する国立大学附属学校が担うべき役割の向上とともに、その社会的使命は益々高まっています。

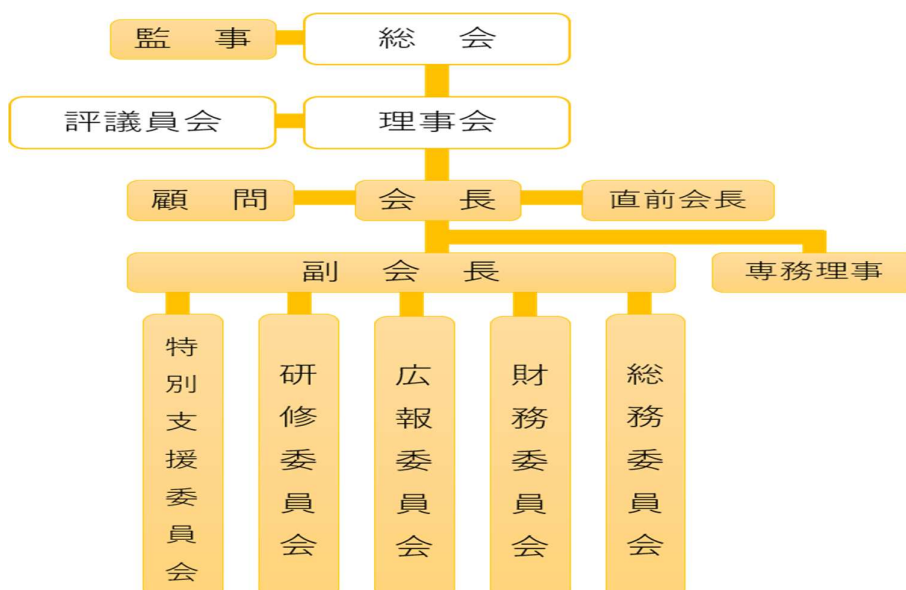
全附P連は、全国の国立大学附属学校単位に構成された単位PTAの健全な発達を促進し、あわせてわが国における社会教育、家庭教育の充実と附属学校の相互の交流を図ることにより、わが国教育全般の発展に寄与することを目的として活動しています。主な活動内容は以下の通りです。

- (1) 社会教育、家庭教育及びPTA活動の質的向上に資するための研究会、講演会、研究研修会等の開催
- (2) 各単位PTA活動の活発化と交流の推進
- (3) わが国の教育及び附属学校のあり方並びにPTA活動の諸問題に関する調査研究
- (4) 青少年の健全育成及び福祉増進に資する情報資料の収集及び提供、広報活動
- (5) 機関誌の発行並びに社会教育、家庭教育及びPTA活動に関する図書・資料の刊行
- (6) 本会の目的に沿い、顕著な業績をあげた単位PTA及び会員の顕彰
- (7) その他本会の目的達成に関して必要な事業



組 織

全附P連は、下図の組織で運営されています。総会は各学校の単位PTAの代表で組織されています。理事会は全国から選ばれた22名の理事（理事会推薦、地区推薦含む）で、評議員会は各地区2名ずつの計18名で構成されています。



4. 全附P連の活動紹介



いじめ防止活動の推進

国立大学附属学校でもいじめの重大事案が発生しています。全国の附属学校は、平成28年に緊急の対策協議会を開催し、適正な対応に向けて取り組んでいます。

いじめの問題は、学校だけの問題ではありません。私たちPTAも当事者である自覚を持ち、傍観者になることなく防止活動を推進しています。全附P連の推進するいじめ防止プログラムは、鳴門教育大学大学院の阪根先生と連携し、保護者と子どもたちのコミュニケーションを重視した構成で実施しています。



香川大学教育学部附属坂出小学校での実施



静岡大学教育学部附属浜松中学校での実施



子ども生活支援（貧困対策）に関する活動

全附P連では、平成27年度から子ども生活支援（貧困）に関する調査研究をはじめました。東京学芸大学パッケージ型支援プロジェクトCCSS（児童・生徒支援連携センター）と情報交換をしながら、共同で研究を進めています。

附属学校の持つ課題としては、次のようなものがあります。

- 附属学校にも6%もの生活支援が必要な家庭の子供たちがいる
- 同じ附属学校に通う子供たちの居住自治体の違いによる支援の格差がある
- 学校園単位で、対策のばらつきがある
- 附属学校に通う子どもの放課後学級や子ども食堂の実態がつかみにくい

ここまでに行った成果としては次の通りです。

- 東京学芸大学、全附連盟と協力し、アンケートを実施
- 学校園に対し、自治体の違いによる格差是正の働きかけをアピール



東京学芸大学フォーラムでのプレゼン

- 学校園単位の奨学金制度の数少ない事例を全国で紹介
- 東京学芸大学CCSSフォーラムで研究報告を実施
- 内閣府子どもの貧困対策担当と連携し、フォーラム等への参加
- 内閣府「子供の未来応援国民運動」を、全国の附属学校園に協力呼びかけ実施（古本募金など）



障がいに関する「理解」と「共生」を育む活動

「カンガルーシップ活動助成金事業」

校種を超えて子ども・教師・保護者が連携し、「理解」と「共生」を育む単Pの活動に対して助成をする事業です。特別支援学校が実施するPTA活動に限らず、幼、小、中、高でも趣旨に合う活動に助成しています。毎年助成金の構成は変更していますが、概ね次のようなものがあります。

- 理解プロジェクト活動助成金：特別支援学校・学級による障がいのある子どもたちへの理解啓発につながる活動への助成
- 共生プロジェクト活動助成金：特別支援学校・学級とそれ以外の学校園との交流の活性化を目的とする活動への助成
- 就労支援活動助成金：障がいを持った子どもたちの将来の進路に関わる就労体験、就労先開拓や理解啓発活動への助成
- ネイバーサポート助成金：発達障害を持つ子どもに対する理解・支援のための活動への助成

「あいサポート運動」の推進

鳥取県ではじまったこの運動は、ともに障害の有無に関わらず、誰もが暮らしやすい社会の実現を目指したものです。障がいのことをよく知り、障がいのある方にちょっとした手助けを実践する運動です。

全附P連は鳥取県知事と連携協定を結び、この普及に向けた活動を推進しています。



財政教育プログラム・金融教育プログラム

～ 社会課題と学校現場を繋ぎ、子どもたちに新しい学びを ～

主権者教育の一環として国家財政を学ぶことが必要だという認識を財務省と共有したところから、附属学校での財政教育プログラムの実施を働きかけました。



大阪教育大学附属平野小学校での様子

附属学校は教育研究を日常行っているので、財務省との協働で新しいプログラムの構築は得意とするところ。PTAの意見も取り入れてブラッシュアップすることで内容も充実し、アクティブラーニング型のプログラムになっています。全附P連のネットワークも活用し、2年間で100校を超える実施を実現しました。

金融庁と連携した金融教育プログラムも、福島大学附属中学校などから新たな発信をしていきます。



PTA研修会全国大会の開催

全国規模の研修会を毎年開催しています。例年約900名もの全国の附属PTAの方々が参加し、多くの情報や学びを各地での活動に持ち帰っていただいています。著名な講師の先生による講演、附属が抱える課題に応じた講師の方々による講演などを行っています。分科会ではグループ討議などを実施し、情報交換会では他県の方々との幅広い交流を行っています。また、文部科学省、財務省、内閣府など関係省庁の方々からの最新の情報の説明やブース展示なども行われています。

第8回全国大会の様子（平成29年9月29～30日開催）

開催スローガン

子どもたちとこの国の未来のために ～附属学校の果たすべき役割とは～

- 開催目的
- (1)日本の公教育を国立大学および附属学校と共に支える全国規模のPTA組織として、その社会的な責任と役割を対外的に強く表明する。
 - (2)日本の将来を背負って立つ子どもの健やかな成長のために、附属学校のあり方を構築していく。
 - (3)全国の附属学校関係者が一堂に会して、直面する全国共通の問題を認識し、解決への道を協議するとともに、さまざまな事例や取り組みを共有する

内容：いじめ対策、スマホいじめ、子どもの貧困対策、特別支援・就労支援、インクルーシブ教育、生活習慣、附属の存在意義、など



基調講演



分科会



本講演



情報交換会



絵画・特別支援記念品 展示



各省庁などによる情報提供ブース

過去にお呼びした講師の先生方（敬称略）

井村雅代、中村克樹、阪根健二、菊池桃子、原晋、副島賢和、林修、養老猛司、辻井いつ子、桑田真澄、尾木直樹、佐藤弘道、山崎直子、桐生正幸、ほか



絵画コンクールの開催

夏に子どもたちの夢や思い出をテーマにした絵画コンクールを開催しています。全国規模のコンクールですので、受賞した子どもたちが自信や感動を感じるいい機会になっていると思います。審査は、岐阜大学教育学部附属中学校の卒業生でもある日比野克彦さんにも協力していただいています。過去には、このコンクールをきっかけに、特別支援学校の生徒が個展開催に発展したケースもあります。全国大会で、受賞した作品を展示したり、広報紙にも掲載することで、多くの保護者の方々にも見ていただいています。

子どもたちの作品（平成29年、第13回コンクール）



小学校高学年部門



特別支援学校部門



中学高校部門



小学校中学年部門



小学校低学年部門



幼稚園部門



東京オリンピック・パラリンピック組織委員会との連携

公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会と連携し、学校での機運の高める活動を行っています。

筑波大学附属大塚特別支援学校でのパラリンピック新種目を視野に入れた活動や、全国の附属小学校にマスコット投票の参加を呼び掛ける活動などを行っています。

全附P連では、東京2020参画プログラムの主体登録をしました。今後、対象アクションを企画し、子どもたちに素晴らしいレガシーを残せるよう活動していきます。



各種勉強会の開催

平成29年度に「国立教員養成大学・学部、大学院、附属学校の改革に関する有識者会議」の報告書が提出されました。全附P連では、連盟と協力し様々な勉強会を開催しています。幼稚園の先生方や特別支援学校の先生方との勉強会では、新しい地域貢献のあり方を、民間人としての視点から幅広い提案を行っています。

また各地区毎に、PTA活動の実践活動協議会を開催し、各単位PTAの向上に取り組んでいます。

5. 全附P連 創立65周年ビジョン

全国国立大学附属学校PTA連合会創立65周年ビジョン

平成29年の国立教員養成大学・学部大学院、附属学校の改革に関する有識者会議を受けて、全附P連では、創立65周年ビジョンを策定して、次の時代に向けた取り組みを行います。



附属学校の公益性向上にむけた連携強化

附属学校は高い公共性は有していましたが、地域貢献などの公益性という点では地域からの評価は十分とはいえません。附属学校が公益性をより評価していただけるためには、PTAのさらなる協力が必要不可欠であり、学校のことをもっと知る必要があります。

全国には、PTAが学校の研究内容を勉強しているところ（広島幼）、公立児童にも門戸を開いたPTA行事（岡崎小）、学校の経営戦略への参画（平野）など、従来のPTA活動の常識に縛られない公益性を意識した取り組みも始まっています。

- ・ 附属学校の公益性を高める活動への理解を深め、積極的に協働する
- ・ PTAの事業に、公益性向上の視点を取り入れる
- ・ 全附P連と中央省庁や関係機関との積極的な連携
- ・ 教育委員会、行政、県市P、公立私立学校、企業などとの積極的な連携



子どもに関する社会課題への積極的対応

全附P連では、現在対策が必要される社会課題にも取り組み、公益性のある新しい活動を実践しています。いじめ防止、子ども生活支援（貧困）、財政教育プログラム、PTAによる土曜放課後活動、障害者理解推進（カンガルーシップ）、障害者就労支援などを推進しています。

また、消費者教育など今後も新しい課題にも積極的に取り組んでいきます。

- ・ いじめ防止は最優先の社会課題と位置づけ、PTAも当事者意識を持ち取り組む
- ・ 子ども生活支援（貧困）の調査研究を推進し情報を発信する
- ・ 財政教育、消費者教育など社会的に必要とされる課題に積極的に取り組む
- ・ 障害者理解をさらに深めるためにあいサポート活動を推進する
- ・ 附属学校を拠点とし、地域の障害者就労支援に貢献する
- ・ 防災や、安全に関する活動を推進する



P T A活動のスマート化

保護者の共働き家庭の増加や、園児児童生徒数の減少傾向を受け、P T A活動をスマート化することが必要です。スマート化は、活動をスリム化するのではなく、より賢く活発にしていく取り組みです。情報の発信や共有の高度化、個人情報管理の徹底、役割分担の効率的改善など、取り組むことが必要です。

また、一部の学校では、P T Aの会合資料や事業設営を学校側が行っている事例もあるようです。P T Aが附属らしく自主的で自律的な活動を推進し、学校の負担を軽減する必要があります。

幼稚園の中には保護者全員に仕事を分担して活性化した

- ・HP、I C T、S N S等の活用による情報の発信や共有の高度化
- ・P T A活動の学校依存度を低減し、自立的な活動を促進
- ・他団体連携を拡大し、高い成果をあげるためのP T Aのネットワークを強化
- ・全附P連と各地区、単位P T Aとの連携を強化する。



教育後援会との情報共有

平成29年に全国国立大学附属学校教育後援会連絡協議会が発足しました。これまで、教育後援会に情報を発信することがほとんどなく、各教育後援会の実態を把握することも困難でした。また、教育後援会の組織運営の参考になるものは平成12年に作成された委任経理の手引きだけでした。P T Aとしては、寄付を集める活動に関わることはできませんが、教育後援会と情報を共有し、附属学校の方向性に対して同じ認識を持つことが求められます。

最後に、附属学校のP T Aは、学校の公益性向上に向けて協働し、

P T A活動にも公益性の視点を導入することで、附属学校の存在意義を

確固たるものとし、子どもたちの未来、またこの国の未来のために

貢献していきます。



全国国立大学附属学校 PTA 連合会

全附連合同事務局

〒105-0001 東京都港区虎ノ門 1-2-29 虎ノ門産業ビル 8F

TEL: 03-3591-2091 FAX: 03-3591-2092

E-mail: jimukyok

